

はづ

No. 21

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会
平成3年3月25日



羽津は安全なまちのはづ!?

交通事故は本人だけでなく家庭の
崩壊にもつながる悲惨なものです。

お互いにルールを守って交通災害を無くしましょう。

「つくろう 明るい車社会」

四日市北交通安全協会
羽津支部長 森 源八

車は私どもの社会生活の中、絶対切り離すことの出来ない貴重なものとなっております。しかし非常に便利なもので人々の足となつてゐる車も、ひとつ使い方を過ると悲惨な交通事故を引き起こす恐ろしい凶器ともなり、我々の生活環境に被害を及ぼす要因にもなります。



長より総員二十名が委嘱され、地域における交通安全意識の高揚や交通事故防止の推進にあらゆる方面にて活動しております。しかしマスクミ報道等で、毎日のように騒がれながら、一向に減少しないのが交通事故ではないでしょうか。

ゆとりもつ 心があなたの 身を守る



交通安全用品の御寄付
富士電機㈱三重事業所は、全社員対象に交通事故防止「協力募金」を実施。その全額を地域の交通安全運動用にと、「交通安全用品一式を御寄贈いただきました。地区安全協会並びに小学校へ配付し、地域の交通安全対策の為に、利用させていただきます。

車社会の発達に伴う交通事故情報から、全国的に交通事故が多発していますが、四日市北警察署管内でもこの羽津地区は交通事故多発地帯になつてゐるのが実状です。そこで羽津老人クラブ春風会では、

又、会長さんから自転車の安全な乗り方を勉強してはと役員会の席上提案され、全員一致で賛成、実行することになりました。その後、四日市北警察署から羽津老人クラブに対し、三重県高齢者自転車競技大会に四日市市代表として出場してはとの話があり、これをうけて春風会有志の方々が約二ヶ月間にわたり熱心に練習し、中には手足に豆ができた人もありましたがその結果が報われて見事団体優勝して三重県警本部長より賞状を授与されました。

老人クラブの交通安全運動

第六春風会長
高齢者交通安全指導員
安田 昇

この3点を交通安全指導の言葉として老人の皆さんに守っていただくようお願いしてあります。

その他春風会では、羽津地区のいろいろの行事や、幼稚園、保育園児の交通安全指導にも協力、活躍しております。どうか羽津地区の皆さん、交通ルールを守ってお互いに大切な命を失わないようにしましょう。



よく考えて行動しよう

羽津小五年 山田 愛



私は、よくお母さんたちと車に乗る。乗りながら外を見ているとねこが車の前に飛び出してきたり自転車や二人乗りをしている人や両手ばなしをしている人を見たことがある。私はその時「あぶないなあ。」と思う。でもねこは、動物だからしかたがないけれども、人には、動物よりも考える力があるのだから、もっとよく考えて行動したほうがいいのだと思う。私は両手ばなしなんか、あぶないし、こわいからぜったいにしたくない。両

何年も前のこと、その日は雨の日でした。お父さんが交通事故にあいました。場所は南いかるがのごみすて場のすこし行った所。わたしの家からあるいて、や、二、三分でつく所です。お父さんがバイクで走ったつたら、小さい軽のトラックが十じろのところであつてきたみたい。わたしとお母さんはすぐにその場所へかけつけました。お母さんは、お父さんの近くへ行きました。わたしは、まだ小さ

自分の安全

羽津中二年 仲谷 千恵

交通事故は、私達にとって一番身近で、一番命を落とす確率の高い出来事ではないでしょうか？

お父さんの事故

羽津北小四年 服部栄利子



かっただけでなきました。だれかが、「元気づけたらなあかんやろ。お

交通事故で死ぬ人はたくさんいます。車ではスピードの出すぎ、歩行者では車の直前直後の横断や、ななめ横断をしたり、信号標識標示などに従わなかったりというように身近に交通事故の原因となるものがたくさんあります。



交通事故で死ぬ人はたくさんいます。車ではスピードの出すぎ、歩行者では車の直前直後の横断や、ななめ横断をしたり、信号標識標示などに従わなかったりというように身近に交通事故の原因となるものがたくさんあります。

父さんはいよいよぶだよ。」と言ってくれました。お父さんはお母さんに、「きゅうきゅう車をよんでくれ。」といいました。お母さんは、きゅうきゅう車をよびました。お父さんは、ただの「だぼく」でした。わたしは、ほっとしました。そして次の日、その軽のトラックの人が、「すいませんでした。」とあやまりにきました。何年も前の話だけど、お父さんは元気です。

(訪問インタビュー)

今回は、二人の子供を戦争で失いながらも、健気にも波乱の昭和を生きぬいてこられた。八田一丁目の森ミツエさんをお訪ねして、心境をお伺いしました。

森ミツエさんは明治三十一年生まれの九十三才。今も大変お元気で天気の良い日は乳母車を押して近くの畑へ出かけられるそう、言葉もしっかりしており安心しました。三男四女の子に恵まれましたが、太平洋戦争が始まって間もなく長男利雄さん、次男茂さん、三男正友さんが相次いで戦場に赴かれました。その内、茂さんは昭和二十一年六月に復員されましたが、利雄さんは昭和十九年一月、正友さんは同年十一月にそれぞれ戦死されました。



国のためとはいえ、二人の子を失った心の痛みは何ともいえない気持ちのことでした。三男の正友さんは両親に内緒で、十七才のとき海軍飛行兵を志願していきました。戦地へ赴く前、郷土訪問で霞ヶ浦の上空へ飛んできましたが、それが最後になったそうです。昭和二十一年六月、畑仕事をしていたら茂さんがボロボロの

軍服を着て帰ってきたときは本当に夢のようで、おじいさんと泣いて喜んだものです。今は畑に出ていると「元気がなあ」と人様から声をかけられるし、死んだ子のことを思ってもあかん、国のためにさし上げたものと思ひ諦めています。自分も今では幸せに暮らしているし、人様から助けてもらって毎日を送らせて頂いて、有難いと思つてゐるそうです。戦時中は、食べ物がなく苦勞した話や、利雄さんの同級生だった精一さんや智さんの姿を見ると、息子のことを思い出して胸が一杯になります、と息をつまらせられました。健康のため、できるだけ畑へ出るようにしているし、食べものも油こいものは少なめに気をつけているとのこと、苦しかった時代を経ているままで生き長らえたことは有難いことです、と感謝しておられました。いつまでもお元気で！



以前のゴミ置場

～同じ場所です 比べて下さい～



きれいになったゴミ置場

やれば出来るんです!

ごみの分別収集については、ごみ出し三原則が守られず、この地区でも悩みの種となっており、市民の皆さんの一層のモラル向上が望まれています。

羽津地区でも例外ではなく、自治会によってはおぼろげに管理されているところもある反面、そうでないところが多いのが実態です。

この問題について先般地区広報第二十二号で皆さんに協力を訴えましたところ、たまたま、ある自治会では早速組長会議を招集され、ごみの分別収集の改善策について話合って対策をとら

れました。

それまではいつも埋立・再生の粗大ごみが山積して、羽津地区の中でも代表的な集積状態の悪い場所でしたが、自治会長さんを始め役員そして町内の皆さんの協力で、今では本当にきれいに管理されており以前の面影は全くありません。

まさに「ヒョーショージョー」を差し上げた気持ちです。

他の自治会でも、ごみの問題でお悩みのところは、一度皆さんで話し合っただけでご理解とご協力が得られるのではないのでしょうか。

根気よくやりましょう。
やれば出来るんです!!

羽津は
私達のまち
美しく
しましょう



日本人初の宇宙飛行士、秋山豊寛さんは、宇宙船から見た地球を「やっぱり地球は青かった」と表現しています。水の惑星と呼ばれる地球は、その四分の三が水に覆われています。そんな青い地球環境を次世代までずっと守っていきたくと考えます。

羽津地区では、身近なところから環境を守ろうと、今後、浄化槽を設置する場合、合併処理浄化槽の設置を推し進めていくこととなりました。これまでの単独浄化槽は、トイレのし尿だけを処理するものでしたが、合併処理浄化槽は、台

所・風呂場等の生活雑排水も併せて処理するものです。

先月の地区回覧で、御案内のとおり、合併処理浄化槽の設置については、市より一定の補助金の交付が、受けられます。(ただし、近く流域下水道の完備が見込まれる一部地域については、除かれます。)

六月一日以降浄化槽を設置される場合、合併処理浄化槽での地区土木協議会の排水同意を得て下さい。

使った水をキレイにして
自然へ返そう。



(一)羽津地区一斉清掃と環境問題について
八田第一自治会長 栗田 米三
城山町自治会長 藤井 信藏

羽津地区では、毎年七月地区水路一斉清掃を実施しているが、天

平成二年十一月二十一日、市民センターで市長を囲んでの地区交流懇談会が開催されました。

市側から、市長以下関係役職者、地区からは、森連合会長のほか、自治会長及び各種団体役員が出席して、地区が抱える諸問題について、活発な意見の交換が行われました。

以下はその概要です。

市長を囲む 地区交流懇談会

十一月二十一日

羽津地区 市民センター

(一)青少年の健全化を妨げるカラオケボックスの廃止について
青少協会長 須藤 啓一

当羽津地区には、カラオケボックスが二ヶ所営業を行っているが、中・高校生が夜遅くまで徘徊している。補導委員による指導も効果がなく、青少年の非行防止の上からも、何らかの法的規制を考えられるか。

最近、急激に増加したカラオケボックスは、平成二年六月末で、市内に十六ヶ所、うち羽津地区には二ヶ所設置されている。

現在、これに対する法的規制は

なく、県の青少年健全育成条例にも違反していない。福岡県下における中学生のアルコール中毒による死亡事件等の問題から、県下事業者による防犯協会の設立や自己規制、県の行政指導等により健全育成への努力がなされている。

市としても、少年センター・警察当局等と連絡を取りながら巡回指導を行なう一方、他県の条例等を参考にしつつ、県当局に青少年健全育成条例の改正を働きかけていくつもりである。

青少年の健全育成・非行化防止は、大人の責務であり、行政・学校・地域の連携した取り組みを進めてまいりたい。

候等により足並みが揃わない時がある。そんな時、収集が遅れ長く放置されている。市の適切な対応を望みたい。又、その際感じることは、空カンの多さである。「空カン」を捨てる人は捨てない人であり、捨てる人は捨てない人である。そんな思いをこめ、清掃活動を通じてモラルの向上を願っている。又、他市では、業者に空カン回収を義務づける条例もあると聞か、本市でそうした考えはないのだろうか。又、近年、マンション、住宅等

ゴミ問題については、各自治会とも悩んでいるところであり、正しいゴミの出し方の講習会を行ったりしてその啓蒙普及をはかっている。市当局も環境問題に対する市民モラルの向上をはかる為、今後とも一層努力されたい。

の建設が進み、生活排水、し尿浄化槽の増加による水路の汚濁が心配されるが、浄化槽の維持管理の適正化を市で条例化できないだろうか。

ゴミ問題については、各自治会とも悩んでいるところであり、正しいゴミの出し方の講習会を行ったりしてその啓蒙普及をはかっている。市当局も環境問題に対する市民モラルの向上をはかる為、今後とも一層努力されたい。



(三)商品の過剰包装を廃し、ゴミを減量しよう。
羽津婦人会会長 坪井 妙子

現在、消費者が買入物をする場合、過剰包装によるゴミを買っていることが少なくない。それも埋立てゴミが多く地球環境保護の観点から、業者に過剰包装をなくすよう指導してほしい。又、そうした商品を買わないような消費者教育を徹底してほしい。

再生ゴミについて、常設の「リサイクルバンク」を設置してほしい。生ゴミ対策として、堆肥による有機肥料作りの補助金の支出、牛乳パック回収運動への協力等を通じ、地球環境保護への積極的取組みを考えてほしい。

平成元年度における四日市市のゴミの量は、十四万三千トン。その処理費用は、十六億五千万円、一世帯あたり一九、六〇〇円の費用を要している。又、その量は毎年三、四％の割合で伸びている。

そうした中で、市でもゴミ問題を根本的に考え直す事を考えており、有識者を含めて今年度中に結論を出したいと考えている。その中で、

市民モラルの低下に対する啓蒙啓発活動は、一朝一夕になるものでなく、今後ともあらゆる機会を通じ、「ごみ出し三原則」の徹底をはかりたい。

一斉清掃後の収集については、できるだけ収集日程を対応させるよう努力する。又、空カン条例について他市に良い例があれば検討したい。生活排水対策については、その効果が期待される合併処理浄化槽の普及に補助金制度を設け、普及促進を図っているが、各家庭においても、創意工夫をはかり、身近な環境を守ることにかけていただきたい。

又、浄化槽の維持管理についての権限は保健所にあり、そこで抽出検査をしたり、通報による検査指導等を実施している。

- ①ゴミ減量の工夫
 - ②有限資源の再利用
 - ③幼児期からの環境教育
- 等、市民と行政のそれぞれの役割を考えることよって、地球環境を守り、市民モラルの向上をはかることを推し進めていきたい。

私の昭和

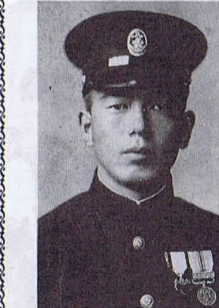
死線を越えて

大宮町 山本 秀夫

私を青春時代は、支那事変、大東亜戦争という昭和の初期から日本の針路の帰結として結局、敗戦を迎えた年代でした。海軍に志願して幾度かの戦闘に参加し、死は覚悟の上でいたが、その当時を一層懐しく思い起しております。

昭和十九年、太平洋戦争がますます熾烈化し制海空権を失なつた日本海軍は、最後の決戦場としてレイテ沖海戦に賭け、戦艦「大和」「武蔵」をはじめ第七戦隊の重巡洋艦群などで最強の艦隊編成で臨んだのであります。

私は当時、最新鋭装備を誇つた重巡「鈴谷」の乗員としてこの海戦に参加しましたが、航空機のない海戦の悲しさ、米軍の猛攻を浴びて主力艦も次々と消えていきました。「鈴谷」も快速を生かして敵艦隊群に突進しましたが、集中爆撃を受け不幸にも積載の魚雷に誘爆して紅蓮の炎に包まれ南海の奥深くその姿を消しました。これより先、艦長の総員退去の命令で戦闘のまま、荒海へ飛び込みました。流出した重油で真黒になった海面でみんなが声を出し励ましあいながら救助を待ったものです。長時間の漂流で幾度絶



(26才のとき)

望を感じたことでしょうか。その間、力尽きた戦友が目前で一人また一人、両手を合わせて「お母さん」と絶叫しながら波間に消えていった姿が今も胸から離れません。ただ気力だけで家族のことなど考えながら頑張りました。幸い僚艦「沖波」の救助艇から投下されたロープに掴まった瞬間、意識を失なつてしまいました。そして乗員千二百名中、生存者二百名の中に残ることができました。

戦後四十五年が経過して、戦争の想い出は遠い昔の物語となりましたが、私にとっては生涯忘れ得ない人生の体験であり、これが昭和のすべてであるといつても過言ではありません。

いま平成の世となり、老境に入って静かに往時を偲びつつ、健康保持のため「ゲートボール」を楽しむ一方で、町の自治会長として地域社会への奉仕に尽力しながら、南海に眠る亡き戦友の霊安かれと祈りたいと思います。

「マラソン大会に 参加して」

スポーツ少年団 北出 泰久

ぼくが、このマラソンに参加するのは今年が初めてです。今までは、サッカーの試合でなかなか参加することができませんでした。今日はマラソンには最高の天気で、ぼくたちもとても走りやすかった。マラソンは、十九人で一チームをつくり、一人が一六キロメートルずつ走った。

ぼくたちは、サッカー部十七人と剣道部二人でチームを組みました。

始め、ぼくたちのチームは、一位でスタートしてがんばっていたけど、途中で四位に落ちてしまった。もう、一位はムリかと思っていたけど、みんなのがんばりでまた順位を一位に上げ、そのまま一位でゴールインした。とにかく一位になってうれしかった。

マラソンが終わってから、スポーツ少年団のお母さんたちが作っ



てくれた、ぶた汁を飲んだ。とてもおいしかったので、ぼくは大きなどんぶりに二杯も飲んだ。とても楽しい一日だった。

「市民大会は 好成绩でした」

体育振興会副会長 森 博司

羽津地区体育振興会では、十日の体育の日(四日市市主催)の体力作り市民大会に毎年参加してきました。

今年度も霞ヶ浦緑地で開催され、地区連合会副会長の藤井栄夫団長以下百五十名の選手団で参加

しました。参加種目及び成績は以下のとおりです。

- ソフトボール 一位
- インディアアカー男子 二位
- インディアアカー女子 参加
- インディアアカーミックス 二位
- ゲートボール 4チーム参加
- グランドゴルフ 二位
- ブロック別以外の種目
 - 校区別リレー男子 一位三位
 - 校区別リレー女子 二位
 - 校区別リレーミックス 四位
 - 玉入れ競争 参加



地域の話題



～1月13日、出初め式～

いざ! という時は、女性の番です! 気を付け過ぎという事は、ありません。お出掛け前に再確認、火の用心! 火の用心!



～11月3日、ゲートボール大会～

若いも若きも、ゲートボール "もうちょっと、あー残念" "やったー 通過!" みんなで楽しめるゲートボール

昨年十一月のある日、いかるが町の伊藤一さん(七十一才)は、自宅近くの畑で農作業の時、一個の風船を見つけた。風船の下には短冊がついており、「ひらつたらお手紙下さい」の文字と住所が書かれていました。

差出人は、兵庫県加西市上万願寺町、棟広とも子ちゃん。どうやら小学生の女の子のようでした。伊藤さんは、家に帰ると奥さんとさっそく地図を拡げ、場所をさがしました。姫路市の北、四日市から約二〇〇キロのころの町で

伊藤さんは、とも子ちゃんに手紙を書きました。

とも子ちゃんからもすぐに、手紙が届きました。とも子ちゃんは、加西市西在田小学校の四年生。風船は十一月十日に全校生徒一九九人で飛ばしたそうです。

一個の風船がとりもつ縁で、伊藤さんはその後、年賀状やお年玉など送り、とも子ちゃんとほのぼのとした交流を続けているそうです。

1個の風船から

(とも子ちゃんからの手紙)

お便り
下さり
さい

ちょっといい話 二人のおばあさん

寒風の中も小春日和の日も、一台のうば車を押して、二人のおばあさんはいつもいっしょ。森里しさん(92才)は、森よ称さん(89才)と一緒に仕事をしています。一緒に働いた仲で、遠縁に当たるそうです。朝十時頃から夕方五時頃まで、いつも一緒に過される仲の良さ、(しょっ中けんかしつしやいですが)目のご不自由な里しさんと、耳が少しご不自由なよ称さんが互に助け合い毎日弁天さんにお参りしたり、買い物に行ったり、気分の良い時は、元三大師までも出掛け



られるそうです。仲の良い姉妹かと思っても若々しく、お歳を聞いてびっくり、十才はお若く見えました。温かい家族に恵まれて、よい友達に巡り合う事が若さの秘訣なのでしょう。ほほえましく、私もこうありたいと思わずにはいられないお二人でした。

地域福祉にと篤志寄付

別名町 森たづ子様より、昨年亡くなられた、御母堂まつ様の御遺志として、地域社会福祉に役立てて下さいと、多額のご寄付をいただきました。ご芳志に深く感謝し、有効に活用させていただきます。羽津地区社会福祉協議会

「地域の話題」

お待ちしています

皆様の身近な所で「ちょっといい話」面白い話等がありましたら、市民センターの方へお寄せ下さい。投稿お待ちしております。



文化祭スナップ

三月二日、三日と羽津地区文化祭が催されました。芸能発表も素晴らしかったけれど、日頃手塩にかけた秀作が所狭しと並べられどれもため息をつくものばかり、羽津の文化もなかなかのもの、これを機会にますます地区の発展を願ってやみません。





羽津郷土史研究会

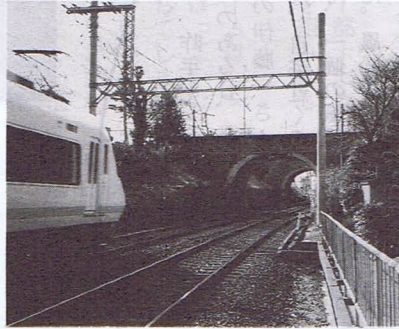
矢守 勝一

羽津の城山公園は住民の誇りである。最近の乱開発の嵐からも免れて応永年間(1394-1427)、上野国(群馬県)出身の武将赤堀盛宗の築城当時の概むねの姿を残している。

しかし、残念ながら南北に堀割られて近鉄の電車が走り、これを跨いで二つのコンクリート・トンネルがかかっている。

何故現在の姿になったのか、又、市の公園になったのか。これには郷土愛に燃えた、昭和初期の羽津の先輩たちの苦心の闘いがあったからである。

大正末期、近鉄の前身の三重県の会社は津から四日市まで走る蒸気鉄道であった。ところが、積極的な経営者に変わり大正十五年に津新地と四日市駅間を電化して伊勢電気鉄道と改名し、更に名古屋まで延長を計画してその第一次として四日市・桑名間に着手した。線路の大部分が低湿な水田を走



るため埋立て用に良質の大量の土が必要であった。これを安く調達するため羽津城跡及び朝日村の縄生城跡の丘陵をカットしてその土を使うことにした。

当時、まだ文化財保護法もなく世間も郷土史跡の保存などの考えは一般化していない時代であった。これを知った羽津村の有志は、電車が来て便利になり、村の発展するのは望ましいが貴重な史跡を守るための秘策を練った。いわゆる一坪地主戦術である。有志は城山の十数ヶ所に一坪ずつ分割登記して地主から買った。地主と伊勢電鉄との談判は定めし激しかったと想像される。

結論として、有志側は城跡の全面トンネル化は断念、現在の二ヶ所のトンネルに譲歩してその代りに伊勢電鉄は城跡全部の土地を買って羽津村に寄附して公園にする事。

さらに当時羽津村の中心であった現在の郵便局の東に羽津駅をつくることであった。昭和四年一月三十日、四日市桑名間の電車は開通した。昭和十六年、羽津村は四日市市に合併し城山公園も移管された。

羽津地区文芸

短歌



羽津野短歌会より

小林 英選

ガード下の自転車置き場いつよりかバイクに変わりカラフルに並ぶ
別名四丁目 青木 照子
生き残りたる戦友の建てしなり石
独立歩兵第十三隊の碑
いかるが町 伊藤 品子
青春をいくさの日々に葬りき中東
の戦火他人言ならず

大宮町 加藤 光子
北国の幼友だちの計を知りて夫は
常より長く酒酌む
羽津山町 坂倉 俊枝
鉢植の葉牡丹の下葉枯れそめて葉
のきざしぬ春立ちにけり
富士町 杉本 光子
水を撒き清掃されたる朝の駅タバ
コの吸殻点々と見ゆ
富田浜町 早川 澄枝
飛び降りて蹲る幼抱きあげぬ死角
に入るバンパーの前
川原町 平子 季昭
幾度か試着してまよふオーバーコ
ート好みのデザイン体型に合わず
羽津町 廣瀬 敦子
日本に住めど心の安からずベルシ
ヤ湾岸の戦火のニュース
羽津町 前田素女子

子の踏みてあれたる苔を手になぜ
て元に戻せり物言わぬ苔
東阿倉川町 水谷 伶子
ピラカンサ一瞬に食べつくす鴨の
群古き洋画の「鳥」思ひ出す
桑名市 村田 千代
連日の戦火のニュースに心重く花
屋に寄りて桜草買ふ
桑名市 渡辺 茂子

〔選者詠〕
「聖戦」の檄に逸りてあはれなる
砂漠の民よ過去のわれらよ
みゆきヶ丘 小林 英

俳句



志氏ヶ野句会より

村田 青麥選

雪山を越え来し風をつまずかず
城山町 宮田 健蔵
毎年の宮に献花の菊づくり
羽津町 大森みつゑ
筆柿を柱に一枝念仏寺
別名五丁目 水谷 安代
立冬の空の青さに葉を問ひく
羽津町 藤井まき女
秋日和畳一パイ目を満す
城山町 片岡とき代
刺繍展入賞の娘や「春の宵」
城山町 川本 ふみ
豆殻を焼くやそこより風生まる
八田町 久志本幹子
石路の黄に雨の一日となりにつけ

〔選者句〕

刈に残る芦のとばりに春の鴨
羽津山町 村田 青麥

編集後記

今回は、交通安全の問題を取りあげましたが如何でしたか。お互いにルールを守って、交通災害を無くしたいものです。「私の昭和」「訪問インタビュー」ともに戦争体験の苦しい時代を反映しています。今また、湾岸戦争で尊い人命が失われたり、油田火災による環境汚染が重大な問題となつています。戦争は終つたけれど一日も早く全面平和が訪れますよう祈ります。

編集委員

- 大宮町 武藤 弘子
- 一筋の風にも応へ秋ざくら
- 白須賀町 館 二三子
- 瓜さきむつまさきいつか摘ひをり
- 緑ヶ丘町 神田妃呂美
- 蛸螂の腹ひきずりて米搗場
- 羽津中一丁目 紀平とく子
- 年酒酌む話昔の事ばかり
- 羽津中一丁目 加藤 幸代
- 山本鉄男・天野平一
- 内田節子・井上キヨ子
- 森 博司・寺村由里子
- 小井正史・上野恵美子
- 山田明美
- 羽津地区市民センター